

教 育 長 様

代表者 校 園 名： 大阪市立長吉中学校

校 園 長 名： 牧野 文彦

申請者 校 園 名： 大阪市立長吉中学校

職 名・名 前： 李 洪 俊

平成27年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース
	(グループ) 研究 (今日の課題) 研究コース
2	研究テーマ
	「学力向上をめざした協同的な学びの研究」 ～対話的な活動の学びを取り入れて～
3	研究目的
	<ul style="list-style-type: none"> ○ アクティブラーニングの手法を生かした授業の研究 ○ 学習意欲向上と低学力克服のための活動的な学びを取り入れた授業スタイルの確立 ○ わからないことを自ら発見して表現し、ともに考えともに学び合う授業の創造 ○ 生徒が考える意欲をもつ発展的で良質な課題設定に資する ICT 機器の活用 ○ 学習課題に応じた小集団学習等、柔軟な学習形態の導入 ○ 外部講師を招聘した授業検討会と校内授業研究会の充実による全教員の授業力の向上
4	研究内容
	<p>本校の根本課題は、学習意欲の向上と低学力の克服である。そのため、数年前より「学びの共同体」の手法を参考として授業改善の研究に取り組み、「運営に関する計画」で本校の方向性としても示され、生徒自身の学びに視点を置いた授業分析と研究授業・授業検討会等を地道に行ってきた。</p> <p>一昨年度は本事業を活用することができ、その一環で「学びの共同体」を先進的に取り組んで成果を上げている富士市立元吉原中学校への視察と研究授業・授業検討会に学校代表3人が参加することができた。全クラス全時間で取り組まれている実態を3人で分担して参観し、つぶさに把握することができた。そこには、学びに集中する生徒の姿や主体的に学習活動に参加する様子、対話活動や言語活動などの活動的な学びを通して仲間と支えあっていい関係を築いている事実があった。また学校の体制としても、生徒の「分からない」を大切に一人残らず学びに参加させようとする取り組みであることも認識できた。この視察で、参加者は目指すべき学校の姿を実感として認識することとなった。まさに「百聞は一見にしかず」であり、帰校後の伝達講習で教員全体の研究推進の起爆剤ともなった。また、1名の大学教授や現在は大学講師や他市教育委員も務める方も含めた3名の元中学校長を継続して授業研究会講師に招き、授業検討会を深めることができた。これらの成果が一朝一夕に表れた訳ではないと分析しているが、昨年4月実施の全国学力・学習状況調査の結果は一昨年度よりも飛躍的に向上したことは事実である。</p> <p>昨年度は残念ながら本事業の選に漏れたが、広島市の先進校で有志が自費研修として視察したり、授業研究会講師にはボランティアで来ていただいたり等の工夫をして、継続的に授業研究の深化充実に努めた。また研究授業以外でも電子黒板の活用が徐々に増加し、複数学年や複数学年で利用希望が重なり調整の必要も出てきた。</p> <p>今までの取組をもとに、今年度は以下の方向で研究を進めたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間5回、放課後に研究授業を行い、外部講師を招聘して「生徒の学び」を中心とした授業検討会を行う。 2. 学習指導案を検討し、生徒の学びに適した「共有課題」や「発展的課題」について研究・資料の蓄積に努める。 3. 先進校への視察を通して、学びの成立した授業を実感し、授業方法を共有化して学ぶ。 4. 学びに効果的な電子黒板を積極的に活用する。 5. 教科の授業研究と同じ視点と手法を取り入れた道徳の研究授業も実施する。 6. 「研究通信」を発行し、研究授業の経過や方向性をリフレクションする。また、他校の研究授業や活動を紹介して研究環境を整える。 7. 全国学力学習状況調査やチャレンジテストなどの結果を分析し、必要な手立てを研究する。 8. 研究授業は近隣小・中・特別支援学校教員にも公開する。

◆ 研究内容のキーワード
学力向上

5 活動計画

- ※ 研究内容に応じて、2年以上の計画を記載することも可（但し、支援は本年度分のみ）。
- 4月 事前研修会
 - 5月 第1回研究授業と研究討議（外部講師の招聘）
 - 6月 第2回研究授業と研究討議（外部講師の招聘）
前期相互授業参観週間（3週間）と授業記録シート（アドバイスシート）の活用
 - 7月 第12回「学びの共同体」（千葉県）に参加…伝達報告会は1か月以内
 - 9月 （上旬）第3回研究授業と研究討議（外部講師の招聘）
（下旬）第4回研究授業と研究討議（外部講師の招聘）
 - 10月 後期相互授業参観週間（3週間）と授業記録シート（アドバイスシート）の活用
先進校への視察（茨城県牛久市下根中学校…伝達報告会は1か月以内）
 - 11月 第5回研究授業と研究討議（外部講師の招聘）
 - 12月 府内中学校の公開授業への参加
府立高校の公開授業への参加
 - 1月 府内中学校への公開授業への参加
 - 2月 本年度の研究のまとめ研修会
※必要に応じて「研修通信」の発行
※本事業選定時は第5回研究授業を全市公開とする。また、3学期にも公開を検討している。

6 見込まれる成果

一斉型授業から、小集団による言語活動の一層の充実、生徒の「わからない」から出る探究活動、共有課題と発展的な課題の設定など活動的な学習に取り組むことによって、生徒の関心意欲を高め主体的な学びを目指すことができる。また学習指導案の検討や研究討議を通して教員の授業力の向上もはかることができる。その結果として、一人残らず学びに参加し基礎学力も応用的な学力も向上すると期待できる。

また、授業を通じて生徒が互恵的な関係をつくり支えあい、仲間が寄り添ってともに「生きる力」を育成していくこともできる。

7 成果の検証方法

活動的な学習、班活動、言語活動、体験的活動などいわゆるアクティブラーニングの要素を含んだ取組の導入率が高くなることによって、生徒の活動的な学習の取組率が向上する。また、全国学力学習状況調査やチャレンジテスト等での得点や質問紙調査での授業や学習に対する積極的回答等が向上する。結果、全国平均との差を着実に縮小し、全国平均レベルの確保を目指す。チャレンジテストでは府平均の確保を目指す。

現在本校は、平成26年度全国学力学習状況調査では国語Aは-5.1、国語Bが-5.7、数学Aは-3.7、数学Bが-4.8と一昨年より改善されてきているが、本研究による授業実践の更なる深化充実により一層の改善を図る。

8 研究発表の日程・場所(予定)

日程 平成27年11月18日(予定)

場所：大阪市立長吉中学校

9 代表校園長のコメント

本校首席が中心となって継続的に取り組み、「運営に関する計画」で明示して全教員の実践に位置づけ、生徒の学力向上、教員の授業力向上を目指している。様々な課題・生活背景を持つ生徒が自ら学ぶ力を身につけられる実践であり、アクティブラーニングを具現化するものとして、今後各校で導入・研究されていくに違いない。しかし、教員の教育的意欲・使命感なしには成立しないし、現時点での本格的な実践は少ない。さらに、喫緊の課題である道徳についても同じ手法で実践研究を進めることができる。優れた実践から受ける刺激が何よりの糧となる。研究成果は本校だけでなく、広げていくことが可能である。是非とも多くの機会を与えることができるよう、本事業でのご支援を賜りたい。

※申請した経費

9 旅費	5 普通旅費	183,580
8 報償金	1 報償金	316,760
11 需用費	1 消耗品費	9,200
18 備品購入費	2 校用器具費	441,950
19 負担金、補助金及交付金	5 会費	46,000
合	計	997,490